

女子栄養大学短期大学部非常勤講師
資源と環境の教育を考える会『エコが見える学校』
関東学院大学非常勤講師
三信化工株式会社

海老原誠治

えびはら せいじ

佐賀大学物理学科卒業、佐賀県立有田窯業大学校・常勤講師を経る。

◎政府インターネットテレビ『徳光・木佐の知りたいニッポン～守りつなぎ広める日本の心 和食』で和食器の給食、出前授業の様子が放送されています。

うつわから出会う、異文化への敬い

前々回はモロー展、前回はクリムト展から文化のつながりを考えましたが、今回はやっと連載の原点に戻り、うつわから考えたいと思います。

マイセンと伊万里

さて美術館などを見て回ると、陶磁器が示す文化のつながりに遭遇します。例えば下の左右の器は、違うけれど、よく見ると、共通点も感じます。実は、右は有田地区（佐賀県）、左はマイセンで焼かれた物です。マイセンといえば、ヨーロッパで初めて磁器を生産したドイツの窯元ですが、その成り立ちが絵柄に隠れています。

磁器の発祥の地は中国で、多くの陶磁器が輸出されていましたが、明時代の内乱から輸出が途絶えます。この時、技術が向上していた有田の陶磁器に目をつけたのが、オランダの東インド会社で、江戸時代の約

100年間（1659～1757年）、伊万里港から出島を経て、磁器が大量に輸出されます（伊万里港から出荷されたことで、現代における有田焼が「伊万里」と呼ばれます）。

当時、非常に高価であった磁器を愛したドイツのアウグスト強王が、鍊金術師ベトガーに磁器製造を命じ、1710年に生まれたのがマイセンです（参考：HP「有田焼創業400年事業ARITAEPISEDE2」、「佐賀県ふるさと歴史物語」、HP「マイセン」）。マイセンでは、多くの伊万里が模倣されたので、よく似た絵柄を見ることができます。

その後マイセンの技術が高まり、中国の政権も落ち着く中、有田焼は国内向けを中心切り替わることで、伊万里港からの輸出も収束します。この100年で輸出された伊万里は、単なる中国陶磁器の代役ではありません。中国大陆から伝わった磁器ですが、日本で発展し確立させた、非対称で余



左：「色絵梅竹虎文大皿」1774-1815年ごろ、（ドイツ・マイセン窯制作）佐賀県九州陶磁文化館所蔵、旧ドイツ民主共和国寄贈。

右：「色絵竹虎文輪花皿」（柿右衛門様式）佐賀県立九州陶磁文化館所蔵。



◀「色絵梅竹虎文大皿」(マイセン) (左)、「色絵竹虎文輪花皿」(伊万里) (中央)、「Ice cream pail」(マイセン) (右) の「虎」の絵の比較。両端はマイセンで模倣されたもので、なんだか体つきも違います。虎の顔立ちも、異国人ならぬ異国虎? 3匹並べると、生まれの違う虎たちがお互い戸惑いながらも気にしているように感じます。

白を大きく活かす構図（柿右衛門様式）がマイセンにも見て取れます。19世紀末のヨーロッパに広がるジャポニズムより100年以上早く、こうした磁器を通じて日本文化が受け入れられたのでした。

参考まで、メトロポリタン美術館で公開されているパブリックドメインから、似た構図のマイセンも、紹介します（画像下）。

文化の尊重と相互理解

SDGsは国連で採択された、世界を改善するために、17個で成り立つ目標です。小学校新学習指導要領：6年生社会科の国際協力でも、『地球規模で発生している課題の解決に向けた連携・協力』と表現され、これに含まれるSDGsは、教育現場でも聞く機会が増えそうです。先日、連続でSDGsに関するセミナーの依頼をいただきました。堅苦しいテーマであったにも関わらず、反響が大きく、食育関係者においても、興味の高まりを実感しました。

さて、SDGsの10番目『国内および国家間の不平等を是正する』には、「年齢、性別、障害、人種、民族、出自、宗教、あるいは経済的地位 その他の状況に関わりなく」という文言があります。これを食で考えると、アレルギーの方でも誤嚥しやすい方でも安心して食べられる給食の提供、オリンピックでより関心が高まっているハラールなどの宗教的な禁忌や食事法も教材となります。もし、異文化であれ、アレルギーや

ハラール・食事法であれ、理解を失えば、偏見や不平等を生み出します。例えば海外からの観光客が、手で食べ出したらどうでしょう？ 驚くかもしれません。しかし世界の4割は手食であり、箸食より主流だということを知れば、相手の文化を理解しようとするかもしれません。

お互いを知ることは、小学校6年生社会科「文化の尊重」・道徳・SDGsの教材となり得ます。もし、異文化交流と同じようにアレルギーやその対応、ハラールや手食などについて学ぶことが、違う立場の人間を理解し、尊重することにつながるのであれば、これも生きた教材といえる気がします。



Ice cream pail (one of a pair), porcelain ca. 1730, mounts ca. 1780–90 ,The Metropolitan Museum of Art, www.metmuseum.org (ドイツ・マイセン窯制作)